

東海聖書神学塾

塾報

460-0022

名古屋市中区金山2-1-3

金山クリスチャンセンター3階

☎・FAX 052-321-7516

E-mail tokai.seisyo.singakujuku@gmail.com

<http://tts.jpn.org>

2018年 7月

第67号



「東海聖書神学塾の歩み」

日本福音キリスト教会連合 栄聖書教会 牧師

東海聖書神学塾 運営委員

末松隆太郎

東海聖書神学塾は1985年に、この地方の福音主義に立つ諸教会の祈りから始まりました。当時、東海地区には神学校はなく、教会から(狭義の)献身者が起こされると東京や神戸、大阪など遠隔地に送り出す以外の選択はありませんでした。出身した教会で訓練し、主の器を整えるのではなく、学びも教会訓練も他に委ねる事になります。何とか課題を解決するために、故羽鳥純二師を塾長に予定し、河野勇一師、後藤喜良師、鈴木健之師らを中心に、具体的に準備が進み、(狭義の)献身者のみ=教職者志願者コースのみならず、信徒の学び=信徒奉仕者コース、も出来る神学校がスタートする事になりました。協力する教会は福音主義を土台とすることは共通ですが、教派としては様々です。しかし、この地区では教派を超えた教会協力の実績が積み重ねられてきており、お互いに信頼感がありました。ちょうど、震災の後に教会協力が進むように、協力しなければ働きが前進していかない状況があったのです。現在、改革派の教職と、ホーリネスの教職が同じ科目の前・後を担当するという事もあります。教師は自らの教派の立場を堅持しつつ、神学生の背景を理解し、細かい相違については、寛容になる必要が求められます。神学生の寄宿舎は併設されていませんので、教会と神学塾は一体となって神学生を育てます。入試の時にも牧師先生に来ていただき面接をし、協力して一人一人の神学生の成長に関わる事になります。授業は朝から夜まで行われており、仕事を持ちながら学ぶことも可能になっています。それとは、別に「女性奉仕者コース」「牧師夫人講座」に加え、現場に出ておられる牧師のために「アドバンスコース」(月1回)も設けられています。これらは、学ぶ内容はもとより、小規模なクラスであるゆえに、学ぶ者たちの交わりも深められる機会となっています。

この地域の教会学校教師のためには、1日研修会が開催され、年1回の事ですが毎年150名ほどの方々が集まってこられます。また「女性公開講座」も開催され門戸が開かれています。このように地域の教会とともに生き、仕えることが塾の使命と心得ています。



卒塾式 3月9日



入塾式 4月6日

女性公開講座



「私が弱い時にこそ私は強いからです」

1月22日月曜日に日本特殊陶業市民会館会議室にて土師記7:1～23から遠藤芳子先生が講演してくださいました。ギデオン率いる軍勢は敵国の数より遥かに少ない。それは到底勝ち目のない戦いに見えました。ギデオンに与えられた勝利の約束。主は敵との戦い方も知恵も与えられた。講演会では芳子先生の厳しい試練のお証しに、ギデオンを勝利に導かれた主の臨在が確かにあるのだと、とても励まされました。

(女性奉仕者コース2年 安田浩子)



春期リトリートは、4月15日(日)夕方から16日(月)午後にかけて、大府市近くの「あいち健康の森プラザ」で開催されました。緑豊かな広大な敷地と健康で身体に優しい食事をいただきながら、高内義宣師から「改革派」と「長老主義」について、2回のメッセージが語られ、改革派信仰とは何か、長老主義の原則などについて詳しく教えていただきました。

(信徒奉仕者コース3年 杉浦 浩)

CS 教師研修会



4月30日月曜日に昨年と同じ、アイプラザ一宮で開催されました。今年は「子どもを知る」というテーマで、主題講演会1-2と5分科会をもちました。現役の教師である鴨下実枝先生のアンケート結果による小学生の生活実態とマレーネ先生の聖書から見る子どもの姿の講演には、参加者の食い入るように聞く姿が印象的でした。分科会の時間を豊かに持つために昼食時間を短縮したプログラムでしたが、時間いっぱいまでに分科会の討議が祝福されました。

(信徒奉仕者コース5年 天木秀緑子)



春のリトリート



教職志願者コースで学ぶ中で

神学校と考えると、神学を中心に奉仕教会で奉仕することかもしれませんが、この神学塾では所属教会での奉仕を中心に神学を学びます。これが、東海聖書神学塾の一つの特徴だと思います。二つ目は超教派の牧師たちの講義であるため一つの神学の眼差しを身に付けることはできない為、自分の神学を持つことが必然となります。この二つの要素の結果、教会での奉仕が楽しくなり、聖書が面白くなりました。

教職志願者コース2年



吉村 俊輔
同盟基督 近江聖書教会

新入塾生の紹介

信徒奉仕者コース



今泉 真由美
信愛キリスト教会

私は、高校3年生のときに初めて教会を訪ね、19歳で洗礼を受けました。生きる希望を失っていた時にイエス様の言葉に出会い、救われました。10年以上教師として働いてきましたが、様々な道が閉ざされる中で「アブラハムの信仰の意義」という講義を聞き、とことん主に従えるよう祈り始めました。三度主を否定したペテロに呼びかけられた「あなたはわたしを愛しますか」という問いが私にも語られ、「私はあなたを愛します」と応答しました。東海聖書神学塾は教会手話教室を通して知りました。尊いみことばの真理に目が開かれる喜びと感動を日々味わっています。クリスチャンとしてキリストの愛を知り続け、福音を聞き続け、十字架の愛に感動し続け、キリストに似た者へと変えられ、豊かな実を通して神様の栄光が現わされていきますように祈っています。



渡辺 博哉
祖父江キリスト教会

「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことのないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」コリント人への手紙 第一 2章9節(新改訳2017) 4月から神学塾の学びが始まりました。週2回火曜日と金曜日の午後6時頃から9時過ぎまでの前半100分、後半50分の授業であります。長い時間ではあるが、先生方の祈りと熱意に溢れる信仰者の思いに満ちた、聖書のみことばを中心とした授業です。私が今までに味わった事のない貴重な祝福の時間です。このような神学塾の学びと塾生の先輩方と同志の方との交わりを、私たちの主と祈りをもって送り出して下さる祖父江キリスト教会の小森牧師夫妻を始め、兄弟姉妹と愛する妻に感謝しています。

女性奉仕者コース



磯兼 淳子
稲沢キリスト教会

今年1月の女性公開講座で聞いた「ギデオンは、資質のなさや自信のなさゆえに選ばれた。神の栄光をあらわすために」というメッセージは、入塾を迷っている私の背中を押してくれました。受洗してから40年と信仰生活は長いのですが、教会を離れていた期間や、福音派ではない系統の教会にいたこともあり、神を信じるとはどういうことか、わからなくなることも多々ありました。そして入学して2か月たった今では、自分の信仰と信じてきたものが正統的なキリスト教の福音から少々ずれていたり、基礎的な知識にも欠けが多かったりを自覚しています。けれども神は、私の周囲に良き人々を備えて助けてくださいますので、感謝しつつ、とりあえずは今学期の単位習得を目指します。



岡村 千恵
岩倉キリスト教会

私は31歳の時に洗礼に与り、もうすぐ20年になります。この20年間、神様の様々な恵みと憐れみを経験させていただきました。一方で、専業主婦として子育てをしながら、特別な訓練を受けたこともないまま役員やその他のご奉仕を経験し、自分なりに一生懸命務めるものの、これでいいのだろうかや迷うことが多くありました。そんな中で、「残りの人生」という言葉が迫ってくるのを感じていた時、ある姉妹に、一緒に神学塾に行かないかと誘われました(彼女としては、導きがないか尋ねただけだったそうです)。驚きましたが、すぐに来るべき時が来たと思いました。今では誘ってくれた(?)彼女に感謝しています。神学塾での学びを通して、神様のご計画の全体像をもっと知りたい、そして残りの人生を主に信頼して明け渡したい、それが私の願いです。



菅沼 カオル
グレースチャペル武豊

現在私は、76歳、九州宮崎を後にして60年、この間色々ありましたが、子供の頃近くの教会の日曜学校に足を運んだのが縁でしょうか。武豊教会に導かれ主日礼拝、聖書の集いを通してイエス様の教えを学んでいます。長年この地で暮らしていると、知人友人が多くできました。皆さんお金や物を持って幸せそうに見えますが、何かしら悩みを抱えている様子が伝わってきます。気にかかるこの人達にイエス様のことを伝え救われてほしいと、祈り続けていたところ、神様は私に塾で学ぶ機会を与えてくださいました。感謝です。これから2年、真剣に学び、学んだことを外に向かって、気にかかる人達にイエス様のことを伝えていきたいと思えます。無事卒業できますよう神様お力をお貸し下さい。



松田 ゆか
北名古屋キリスト教会

8年程前から教会学校の教師として奉仕させていただいています。いつかはちゃんと学びたいとずっと思ってきました。昨年の神学塾主催の教会学校教師研修会で塾の案内がなされた時、まるで自分に語られているように感じました。みこころを求めて教会の方々と共に祈っていく中で、入塾に必要なすべてが整えられていきました。神様がこのタイミングで導いてくださっているのだと確信し、入塾を決めました。今私たちの教会は、子どものみならず大人も含め教会全体がみなで成長しようとしています。このような時期の入塾は、自分の成長のためだけでなく、教会全体の成長のためだと感じています。この神学塾で学んだことが活かされて、神様に用いていただけるよう一生懸命学びたいと思えます。

行事報告

- 1月22日(月)、『第33回女性公開講座』が日本特殊陶業市民会館・会議室を会場にして持たれました。和泉福音教会伝道師の遠藤芳子先生が、「弱いときにこそ、私は強い」の題で講演していただき、約150名の参加者がありました。
- 3月9日、夕方の卒業式を前にして理事会、評議員会を開きました。
- 3月19～20日、レークサイド入鹿にて持たれた教師一泊研修会では、野田喜裕先生の「部落差別問題」と後藤喜良塾長の新刊『ペンギン牧師と祈る「主の祈り」』による発題で、10名の教師が研修しました。
- 4月30日(月)にアイブラザー宮を会場に持たれた『第25回CS教師研修会(一日神学校)』では、「子どもを知る」をテーマにした講演会を、鴨下実枝先生(小学校教頭)とマレーネ先生を講師に迎えて行いました。130名が学びました。
- 夏期教会実習(7月5～8日)では、日本バプテスト宣教団・猪子石キリスト教会(馬場茂寿牧師)と同盟福音・天白キリスト教会(野田喜裕牧師)と名古屋福音自由教会(平井聖歩牧師)が塾生たちを迎えてくださいました。
- 前期は、南米宣教会の佐藤浩之宣教師と、ドイツ・アライアンスミッションの副局長ヨハン・シュミット師をチャペルに迎えることができました。(塾生主任 河野勇一)

教務報告

- 「収穫は多いが働き手は少ない。だから収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」マタイの福音書9章38節
- 今年度は信徒奉仕者コース2名、女性奉仕者コース4名、牧師夫人講座1名、聴講生6名、アドヴァンスコース12名の受講生が与えられています。感謝です。
- 東海聖書神学塾のホームページから入学の願書や聴講申込書がダウンロードできます。そちらをご利用ください。また、案内をご希望の方は塾にお問合せください。
- 東海聖書神学塾は随時、見学者を受け入れています。入塾前に授業光景を見てみたいという方は、神学塾に お問い合わせください。(教務主任 鴨下直樹)

2019年度 塾生募集

- 東海聖書神学塾のコースは以下の5つです。
 - 教職志願者コース「牧師、宣教師等に召された人のため/週2、3日の学びで5年程」
 - 信徒奉仕者コース「信徒牧会者・信徒伝道者等のため」
* 週2日、昼または夜だけの学びの場合は4年程、昼夜の学びの場合は2年程で修了
 - 女性奉仕者コース「教会の女性奉仕者のため/毎週の金曜日の学びで2年」
 - 牧師夫人講座「牧師や宣教師夫人だけのため」/隔週の金曜日の学びで2年
 - アドヴァンスコース「牧師や神学塾の卒業生のため/毎月一度月曜日の学びで1年単位」
* 入塾願書をご希望の方は、どうぞ郵便で当塾へご請求ください。{返信用の切手92円同封}ホームページからダウンロードしていただくこともできます。
- 当塾は教会から推薦された献身者のみを受け入れる方針を堅持しておりますので、入塾希望者は必ず所属教会の牧師の指導を受けると共に、教会役員会で召命と献身を確認して頂き、教会全体の支援を受けて入塾できるように準備してください。
- 2019年度の入塾説明会は 2019年1月4日(金)2時～ と5時半～
同 入塾願書の締め切りは 2019年2月15日(金)必着
同 入塾試験(筆記・面談)は 2019年3月1日(金)1時～ (全員)